

## ～化粧品原料の新たな可能性を追求～ アルビオンが自社研究所に抽出研究棟を新設

化粧品メーカーの株式会社アルビオン(東京・中央区、小林章一 代表取締役社長)は、2021年6月14日に自社栽培した植物のエキス製造、抽出技術研究、発酵技術研究を目的とした抽出研究棟を秋田県藤里町のアルビオン白神研究所内に開設いたしましたのでお知らせいたします。



### ■ 開設の経緯

アルビオンは2010年に、トレーサビリティの確保と、植物の力を引き出す栽培技術・バイオテクノロジー研究を目的に、秋田県藤里町にアルビオン白神研究所を開所。安心・安全で高い肌効果を持つ化粧品原料開発のため、自社農園での無農薬栽培や抽出したエキスの効果実証などを行ってきました。

今までは、植物栽培からエキス開発を経て製品化するというプロセスの中で、植物からのエキス抽出だけは外部の協力企業様の力を借りていましたが、今後、さらなる化粧品原料の可能性を見据え、自社で抽出を行うための抽出研究棟を建設することといたしました。

### ■ 可能な抽出方法と広がる化粧品原料の可能性

可能な抽出方法は、現時点で4種類。アルビオン独自の抽出方法「亜臨界DME(ジメチルエーテル)抽出」を中心に、「水蒸気蒸留抽出」「溶媒抽出」などを行っています。

化粧品原料の材料となる植物は、花、葉、茎、根などの部位と収穫時期(季節・時間帯)によって含有する成分が異なりますが、自社農園で育てた植物と抽出技術を多角的に組み合わせることにより、植物の力を最大限に活かした独自原料の開発が可能となりました。

アルビオンでは、原料の自社栽培から製品化、販売まですべてを一貫して行うことにより、より一層安心・安全で、お客様の肌でしっかりと効果を実感していただける製品づくりを進化させてまいります。

### ■ DATA

敷地面積:7,619平方メートル

延べ床面積:610.03平方メートル 内)植物エキス抽出面積:119.16平方メートル

## 【資料】

### 〈アルビオンの植物研究とブドウ栽培〉

アルビオンは、2012年に秋田県藤里町からヤマ・ソービニオン（ヤマブドウとカベルネ・ソーヴィニヨンの交配種）の購入を開始し、ブドウ由来の化粧品原料の検討を始めました。研究は栽培技術開発をはじめ、種や果皮、葉、果梗(かこう)※からのエキス抽出技術、果汁からワイン醸造過程で行う発酵技術などです。これらの技術は自社農園の様々な植物に応用され、独自成分の開発に活かされています。

現在では、研究所周辺に、高齢のため栽培を辞められた農家様からお借りしている土地を含めた約35,200平方メートルのブドウ畑でヤマ・ソービニオン、シャルドネ、ピノ・ノワールの3種を栽培し、そこでワイン醸造することで、世界遺産白神山地の地元ワインを守ることに貢献しています。

アルビオンは、ブドウの栽培研究を通じ、地域とのつながりを大切にしながら高級化粧品にふさわしい商品の研究開発を目指してまいります。

※ブドウのヘタや柄の部分でタンニンと呼ばれるポリフェノールを多く含みます。

### 〈アルビオンの研究体制〉

アルビオンが目指す「価値ある高級化粧品づくり」を支えているのが、確かな研究開発・技術力です。最新の皮膚科学に基づく研究開発、安全性を徹底検証する各種試験や肌への効果測定などを行い、お客様に肌で実感し、ご満足いただける商品を生み出すことに力を注いでいます。それぞれの施設で、その特性を活かした研究を推進することにより、お客様の期待を超える新しい化粧品づくりに挑戦しています。

#### 〈製品研究〉

○アルビオン東日本橋研究所（東京都中央区東日本橋／2013年開設）

銀座本社から20分という東京の中心に立地。都市分散型組織の象徴として世界中の情報が集中する都心部で化粧品開発をするという他に類を見ない取り組みで、製品開発、薬理研究全般を行っています。

○横浜研究室（神奈川県横浜市西区／2020年開設）

商業施設「ニューマン横浜」（横浜市）に入る店舗「アルビオン フィロソフィ」内に位置するオープンラボ。原料や処方設計の検討など、主に基礎研究を行うほか、アルビオンのものづくりに関するお客様参加型のワークショップや肌分析も実施。研究員が直接お客様の声に触れることで、消費者ニーズを研究活動に迅速に反映することを目指しています。

#### 〈国内植物研究〉

○アルビオン白神研究所（秋田県山本郡藤里町／2010年開設）

世界自然遺産の白神山地の麓、秋田県藤里町の協力を得て、研究所とパイロットファームを設立。2021年6月には抽出研究棟が加わり、美容効果が期待できる有用植物の研究、栽培、植物エキスの抽出を行っています。

#### 〈海外植物研究〉

○スリランカ伝統植物研究所（スリランカ／2014年開設）

固有植物の宝庫であり、アーユルヴェーダなど伝統医療が盛んなスリランカに着目。

東京農業大学、佐賀大学、現地のワヤンバ大学と連携し、実用化されていない植物の分析や新規成分の開拓などを行い、新たな化粧品の開発を目指しています。

#### 〈素材研究〉

○アルビオン沖縄研究所（沖縄県うるま市／2021年開設）

沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センター内に開設。亜熱帯植物および海洋資源の化粧品原料開発と多様な分析装置を活用した高機能成分の探索を目的としています。